

授業改善に向けて、学校で大切にしている取組

酒田市立南平田小学校

1 実践校の状況

平成18年4月に酒田市立東陽小学校と酒田市立南平田小学校が統合、新設校として開校。

平成21年4月現在 児童数298名、教職員数26名。

【学校教育目標】

“あなたが いないと さみしい”と言われるような人になろう

そのために かしい子 美しい子 たくましい子 をめざそう

【学校研究テーマ】

自分の考えを生き生きと伝え合う子どもの育成 ～国語科の学習活動を通して～

【学校研究を通してめざす子どもの姿】

- (1) 課題に対して自分の考えをしっかり持つことができる子ども
- (2) 自分の考えを、相手に分かりやすく書いたり話したりすることができる子ども
- (3) 友だちの考えを受け止めながら、伝え合い、学び合う子ども

【研究内容】

(1) 基礎基本の定着

子どもたちが自分の考えをしっかり持ち、伝え合う力をつけるために必要なことは何かを吟味・精選し、基礎基本定着のための教材研究を充実させる。

- ① 単元及び本時の目標の明確化
- ② 言語を通して表現する力
- ③ 言葉で伝え合うスキル（話し方・聞き方の指導など）

(2) かかわり合う授業づくり

個の学びを集団を通して高め合うために、子ども同士がかかわり合う場を工夫した授業づくりを進める。

- ① 考える時間・場の設定
- ② 交流形態の工夫
- ③ 自己評価・相互評価

2 実践の内容

かかわり合いで広がった言葉を、様子を表す「視点」で整理し、基礎基本の定着を図った実践

【小学3年 作文教材「分かりやすく書こう」(光村図書)】

- 構成を考えて文章を書く力を付けるために、文章全体の構成に気付かせる場を設定する
- 単元全体の構成から本時の学習を位置付けし、毎時間の学習のねらいを焦点化する
- 「様子を表す言葉」を広げるために、取材活動を想起し、言葉を通して比較する

《実際の授業から》

T（「えんとつは高い。茶色。長い。」を提示したあとで）もっと詳しくできないかな。どうすると詳しくなるかな。 C（困り感。暫し沈黙）

T（えんとつの隣に、担任の先生が立っている写真を提示）

C（グループで相談したあと）

C 先生より高い。10mくらい。13mくらい。

先生が縦に5人つながった高さだ。

C 茶色くて小さな網目がついていた。

C 途中から登るところがある。昔、工場のはしごがあった。

C 手ざわりがざらざらしている。でこぼこしている。

C シャープペンみたい。ロケットみたい。素材がレンガでできている。

C 先生の身長が162cmだから、その5倍で8m10cmの高さだ。

⇒ 教師は児童から出された「様子を表す言葉」を一つ一つ板書し、どうすると様子を詳しく表現できるかを問い、整理し類別していった。児童は本時で学んだ「視点」を生かし、再び書く活動に向かった。



見方や考え方の違いを大切にし、対話することで納得し学び合う実践

【小学4年 物語文教材「白いぼうし」(光村図書)】

松井さんはどんな人か考えよう。(初発の感想の中から課題を設定。意欲を高める。)

■ 一人一人に考えをもたせる

- ・ 全員で本文の一文リレー読みをする。
- ・ 根拠となる文にサイドラインを引き、ノートに自分の考えを書く。

■ 相違点を意識しながら伝え合わせる

- ・ 全体で考えを伝え合う。… 教師の意図的指名から児童の相互指名へ

T 似ている人は? (他にもあるよという人? ちがう人?)

〇〇さんはちょっと違うところを見つけていたよ。発表してくれる?

C やさしい人。やさしくておもしろい人。心の広いやさしい人。おもしろくて親切。人の気持ちの分かるやさしい人。笑顔でやさしい人。…

C 松井さんにとって大事な夏みかんをあげるのは、心がやさしい。

C 車がひいてしまうから、ぼうしをどかした松井さんはやさしい。

C 人の気持ちの分かる人。ちょうがいなくなって、どんなにがっかりするだろうなど思っているから。

C 親切な人。ちょうを逃がしてしまったかわりに、ぼうしの下に夏みかんをかくしてやったから。…

⇒ 一人一人に応じた具体的な支援計画(座席表等)があり、教師は児童の考えを事前にとらえ、話し合いの中で生かしている。

■ 一人一人に返って、考えを再構築させる(自分の力でノートにまとめる)

T みんなの考えを聞いて、松井さんがどんな人だと思うか、考えをまとめてください。

C 最初は〜だと思っていたけど、〇〇さんの考えを聞いて、〜だと思った。

⇒ 振り返る中で、自分の考えの深まりを自覚させる。

■ 再構築した考えを伝え合わせる(全体で考えを伝え合う)

T どんな考えを聞いてそう思ったの?

⇒ 話し合いの中で考えが変わったり、確かになったり、深まったりしたことを伝え合い、話し合いのよさや価値を共有させる。

⇒ 友達の考えを聞いて参考になったことや、なるほどと思ったこと、自分ががんばったことなどを発表し合う。



3 成果

□ 単元や本時のねらいを焦点化し、教材の基礎基本を吟味・精選する授業実践を継続してきたことにより、児童は今何をどのように学ぶかがわかり、見通しを持って学びに向かうことができた。その中で、根拠を明らかにした考えを自分の言葉で表現する活動を設定したことで、友達の考えも大切に思う心の構えをつくることができた。

□ 個の学びがより確かなものになってきたことにより、集団での学びの質が高まってきた。お互いの考えを比較する中で共通するところや違いに気づき、それぞれのよさを伝え合い、再び自分の考えに返りながら、自身の新しい考えや価値に到達する場面が見られた。

4 メッセージ(教育事務所としての価値付け)

新学習指導要領では、4領域(話す・聞く、書く、読む、言語事項)の相互の関連から伝え合う力を高め、思考力や想像力、言語感覚を養うことを大切にしている。本校の実践は、4領域のバランスを的確にとり、国語科のねらいに迫る実践研究である。書く活動でも読む活動でも精一杯考え、自分の言葉で生き生きと伝え合い、思考を深め、そしてお互いを認め合う児童の姿が印象的だった。

こうした児童の姿を生み出す教師の「授業力」に学びたい。すなわち、児童に学びの基礎を指導する力、単元を構成する力、45分の授業を構成する力等を磨くための教師の教材研究の積み重ねこそが、生き生きと考えや思いを伝え合う児童の姿に結び付くことを銘記したい。